

令和2年度

徳島県立富岡東中学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

中高一貫教育の特性を生かし、
生徒一人一人に「確かな学力」をつける教育内容の創造

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 委員
紅露 瑞代 安崎輝彦(教頭), 森岡宏文(教務・数学主任), 井内
(学力向上・第1学 幸(第2学年・国語主任), 田所寿美(第3学年・英語
年・理科主任) 主任), 片山博文(研修・社会科主任)

校長

宮井 玲夫



◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○基礎的・基本的な知識・技能が身に付いていたり、与えられた課題にもまじめに取り組めたりできる生徒が多い。 ●発問にある解答の条件を的確に捉えて解答することに課題がある。	・学習の過程を通して習得した知識が、既習の知識と関連付けられ、他の学習の場面で活用することができる。 ・身に付けた個別の技能についても、他の学習や生活の場面において活用することができる。	・生徒が興味をもって学習に取り組むことができるように発問を工夫する。 ・他校種、他学年、他教科の教員が相互に授業参観を行う。 ・富東タイムやRRCを計画的に実施し、個に応じた指導を積極的に行う。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自分の考えを書いたり、友達の意見をしっかりと聞いたりすることができる生徒は多い。 ●課題に応じて、必要な情報等を取り入れたり、複数の考えから新しい考えを創造したりすることに課題がある。	・各授業における課題等に対して、話し合い活動等を通して、解決する方法を考えることができる。 ・習得、活用、探究の各場面において、適切な言語活動により表現することができる。	・ペア学習やグループ学習の機会を効果的に設定する。 ・ホワイトボードやICTを効果的に活用した発表や話し合い活動をさせる。 ・生徒の発言や発表の内容に応じ、「なぜ」、「どうして」などの更なる発問を行い、生徒の考えを深めさせる。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○各授業へ一生懸命取り組むことができる。また、家庭学習にも主体的に取り組むことができる。 ●各教科をバランス良く計画を立てて取り組むことと、継続的な自学自習に課題がある。	・各教科の学習に主体的に取り組むことができる。 ・自分の学習の状況をしっかりと振り返り、自らの課題を解決できるよう計画を立て、実践することができる。	・何を・なぜ・どのように学ぶのかが生徒に伝わるよう、授業のめあてを提示する。 ・振り返りの視点を生徒に示し、記述させる。 ・定期的に生活実態調査を実施する。			

令和2年度 学力向上ロードマップ



